

第2回例会

第11回札幌支部奨学生 島谷真梨さんの受賞スピーチ

私たち大学女性協会の会員にとって、若い女性研究者が恥じらいながらも「この実験結果を見た時、やった！と思いました」と聞くことほど嬉しいことはない。そして、支部奨学金制度を続けてよかったと思う瞬間である。



2023年2月28日午前10時より、ウェブ会議システムを使った今年度第2回の例会が行われた。札幌支部奨学生の島谷真梨（しまたに まり）さんの受賞スピーチである。島谷さんは、北海道医療大学大学院歯学研究科博士課程の3年生で、組織再建口腔外科学専攻。研究テーマは「透明化技術を用いた扁平上皮癌および悪性黒色腫の骨破壊と骨浸潤のイメージング解析」である。平たく言うと、口腔内に

できたがん細胞が、頭蓋骨や顎骨などの骨に広がっていくメカニズムを解明するため、実験動物マウスにがん細胞を移植し、「透明化技術」と「共焦点レーザー顕微鏡」を使い、がん細胞の広がりの過程を三次元のイメージ画像におこして解析する研究である。

「透明化技術」とは、生体組織を段階的に薬液につけて透明にする最先端技術で、これにより、組織の深いところのようすを三次元で解析することに役立つという。また、「共焦点レーザー顕微鏡」は、厚みのある試料（と、いってもミクロの世界！）でも高解像度で三次元情報を構築できる顕微鏡なのだそう。前述の「やった！」は、この実験により、がん細胞が骨を破壊し、広がっていく様子を見ごとな三次元画像としてとらえた瞬間の気持ちだそう。これまでも実験結果の画像が学会のポスター賞に選出された島谷さんならではの技術力なのだろう。

口腔がんは比較的少ない癌だそうだが、骨への浸潤メカニズムは未だ解明されていないという。現状、腫瘍部の外科的切除が、臨床での第一選択肢であり、その結果、食事摂取や発語への影響、顔面容貌の変化など、患者のQOLに大きく影響する。他への転移もあるので、一日も早くメカニズムがわかり、治癒につながることを願うばかりである。そのために、島谷さんの基礎研究が貢献できるならば、応援している私たちも望外の幸せといえよう。

当日は、例会案内が直前になったにも関わらず、本部会長以下、全国から四名の支部長も参加下さり、総勢十二名で、活発な質疑応答も行われた。癌がテーマなだけに、臨床的質問も多かったが、最先端の技術を駆使して実験結果

皆様に私の発表をお聞きいただけたことは、地道な研究生活に日が照らされたかのような暖かな気持ちになり、大変光栄で貴重な経験でした。研究成果の続報をまた皆様にお聞きいただけるように、日々精進して参ります。この度は、札幌支部の奨学生に選出していただき心より感謝しております。今後とも何卒よろしく願いいたします。
(島谷真梨さんのメールより抜粋)

を得られたことへの賛辞や、研究進捗への期待の声も寄せられた。

最後に、口腔がんの予防のためには、タバコ・アルコールを控えること、定期的に歯科医に行くこと、違和感のある入れ歯は直すこと、すなわち、口腔粘膜に刺激を与えないこと、ひいては刺激物をあまり摂取しないこと、だそうだ。歯科医師島谷先生の助言である。

(野寄 由利)